

(エ) 「先人の知恵を未来へ届ける」ゼミ

生徒： 27 名

概要：奈良県の伝統文化継承、世界遺産、地域遺産に向き合い、未来に継承するためには自分たちに何ができるかを考えた。

ファミリー（チーム）での取り組み

テーマ：奈良の鹿保護

取り組み：奈良の鹿保護のため、また伝統的な工芸品や行事についての認知度を上げる必要があると考え、奈良の鹿愛護会に来校していただき、講演会・インタビューを行い探究を深めた。

テーマ：日本の寺院を守る

取り組み：
全国の寺社仏閣を保存していくためにどのような取り組みが必要なのかを考えた。材料である木材の栽培状況を調べたり現状を知るため、春日大社にオンライン会議システムでインタビューを行ったりした。

テーマ：伝統技法「ろうけつ染め」

取り組み：
伝統的な染色技法であるろうけつ染めについて調べ、その継承に向けて自分たちにできる取り組みについて探究した。実物に触れたり職人にメールでインタビューを行ったりし、探究を深めた。

テーマ：伝統産業「大和茶」

取り組み：
奈良県で古くから栽培されている大和茶の認知度を高めるため、高校生の目線で新たな活用法を考えたり、大和茶農家にオンライン会議システムでインタビューを行ったりし、探究を深めた。

テーマ：伝統食品「奈良漬け」

取り組み：
奈良県の伝統食品である奈良漬けを伝えるため、地域の奈良漬け販売店へ行き利用者層を調査したり、販売者にオンライン会議システムでインタビューを行ったりし、探究を深めた。

テーマ：今井町の町並み

取り組み：

奈良県の古民家を継承していくために、「重要伝統的建造物群保護地区」に選定された今井町の暮らしや伝統を調査するため、今井町町並み保存会にオンライン会議システムでインタビューを行い、探究を深めた。

テーマ：建築技術の伝承

取り組み：

伝統的な建造物を保存するために必要な取り組みを考えるため、木材や文化財の修繕方法や携わる職人について知り伝えることを目的に、文化財保存課にオンライン会議システムでインタビューを行い、探究を深めた。

テーマ：吉野桜

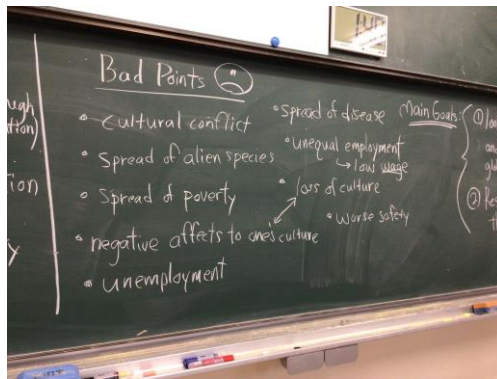
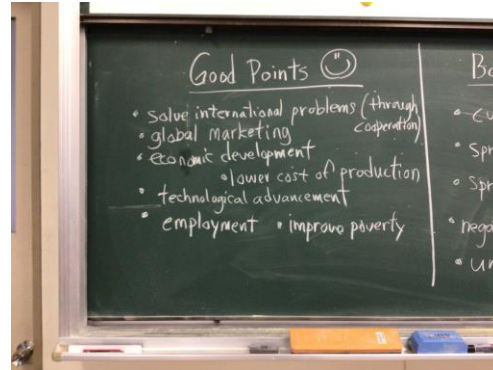
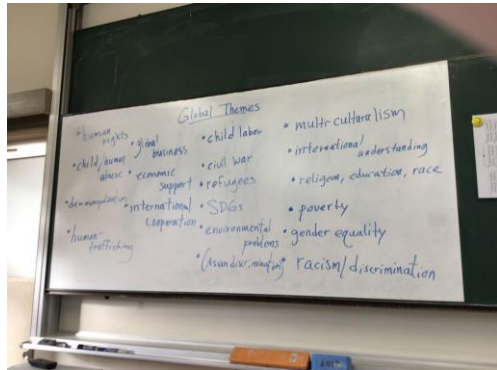
取り組み：

吉野山の桜を保全するため、実態を周知するためのポスター制作や募金箱の設置、吉野山保勝会にオンライン会議システムでインタビューを行い、探究を深めた。

生徒・教員の変容

グローバル探究のゼミ活動を通して、身近にある文化について再認識し、その継承のために高校生としてどのようなことができるのか考えた。各ファミリーで興味関心のある分野について、保全に関わっている専門家や職人に対面やオンライン会議システムを使ってインタビューを行った。その結果、現状の認識やより実生活に寄り添う形で伝統について考え、自分たちに何ができるのかを考える時間ができた。

概要：国際理解・国際協力・多文化共生という視点からより良いグローバル社会を創造するために何が出来るかを探究した。



ファミリー（チーム）での取り組み

テーマ：文化の衝突

取り組み：文化の衝突が生み出す功罪について話し合い、この問題に対する有効な対策について議論を重ねた。

テーマ：貧富の差

取り組み：世界各地で見られる貧富の差について調べた。特にアフリカに着目し、京都大学アフリカ地域研究資料センターに問い合わせを行うなど、その原因と改善方法について議論を重ねた。

テーマ：人種差別

取り組み：人種差別の問題に関心を持ち、特にアジア人差別問題に焦点を当てた。この問題に新型コロナウイルスが及ぼす影響を調べ、その原因と対策について議論を重ねた。

テーマ：児童労働

取り組み：グローバル化が進む中で経済と貧困がどのように関わっているかに関心を持ち、特に児童労働について調べた。児童労働が生じる要因を調べ、この問題の解決方法について議論を重ねた。

テーマ：アジア人差別問題

取り組み：人種差別の問題に関心を持ち、特にアジア人差別問題に焦点を当てた。この問題に新型コロナウイルスが及ぼす影響を調べ、その原因と対策について議論を重ねた。

テーマ：異文化理解

取り組み：日本と他国の文化の違いや共通点について調べ、文化を取り入れることと文化を守ることを両立させる方法について議論を重ねた。

テーマ：グローバル・ビジネス

取り組み：GoogleやAppleなどのグローバル企業の発展過程を調べ、そこから労働環境の改善や経済格差の是正につながる方策について議論を重ねた。

テーマ：男女差別問題

取り組み：男女差別の問題に関心を持ち、各国における男女の社会進出の違いを調べた。「男女平等ランキング」などを参照しながら、各国と日本の現状を比較し、男女格差の解消方法について議論を重ねた。

生徒・教員の変容

生徒：調べ学習→班で話し合い→全体で共有→課題や論点の見直し、というサイクルが確立してきた。取り組んでいるテーマが自分たちとどういう接点を持つかを探すようになった。

教員：ある程度アドバイスを与えるなどして生徒を導く必要がある場面と、生徒に考えさせる場面の見極めができるようになった。生徒が取り組んでいるテーマに教員も関心を持って調べるようになった。

概要：

- ①人権とは何か・日本社会にはどのような人権課題があるかを考えた後、『なかまとともに』（奈良県教育委員会）を使用し様々な人権課題をグループごとに調べ、全体で共有した。
- ②関心をもった人権課題について『知っていますか？一問一答』シリーズ（解放出版社）を読みグループごとにクイズを作成し共有することで、人権課題の様々な背景について深めた。
- ③身近な社会である自分たちの「学校」に「人権」という文化を根付かせるには、どうすればいいかを考えた。「国際高校が人権の尊重された学校になるには？」を課題に、各グループで①・②で共有した知識も活用しながら議論し、具体的なアイデアを発表する準備を行った。

ファミリー（チーム）での取り組み

テーマ：野宿生活者への支援のあり方について

取り組み：野宿生活者の背景について考え、NPO法人Homedoorの取り組みを調べ、学校として何ができるかを模索した。

テーマ：LGBTQと校則

取り組み：LGBTQ当事者が過ごしやすい学校になるよう、校則がどのようなものであれば望ましいかを考えた。

テーマ：トランスジェンダー生徒の更衣場所について

取り組み：トランスジェンダー当事者が体育等で更衣する際、どのような更衣場所が本人にとって過ごしやすいかを考えた。具体的な提案として、保健室の個室を使用するというアイデアを考えた。

テーマ：教員の障害者雇用について

取り組み：教員に多様性があることで、多様性の尊重が文化として根付くのではないかと考え、教員の障害者雇用について調べ、考えた。

テーマ：身体障害者が生活しやすい校舎について

取り組み：校舎内をフィールドワークし、段差や車椅子では通りにくい場所などを点検した。その後、どのように改善ができるか、必要な予算や法律などについても考えた。

テーマ：LGBTQについての意識調査

取り組み：LGBTQについて、どのくらいのことを知っているか、どんなふうにいるか等、意識調査を実施し、その結果をまとめることで何が必要かを考えた。

テーマ：手話を広める

取り組み：聴覚障害者とのコミュニケーション手段として、手話の重要性を認識した上

で、校内の誰もが手話で会話できるようにするため、ポスターを作成するなど具体的なアイデアを考えた。

テーマ：ジェンダーの視点で学校文化を考える

取り組み：ジェンダーの視点から、学校文化が男子・女子の固定的な見方に縛られないようにするためにはどうすればよいかを考えた。

生徒・教員の変容

日本社会にある人権課題について、先行文献にあたり、様々な活動をすることで、背景も含めて深く理解することができた。それらを踏まえ、身近な社会変革（自分たちの学校変革）に向けた、具体的な提案を考えることができた。とりわけ、安易な提案に終始しがちであったものを、より深い背景に迫るよう助言することで、グループ内で活発に議論し、考える力が育成されたと思われる。